

平成26年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	10	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PEを中心とする全学的な英語教育の充実、少人数教育への取組み、医学部における2023年問題への積極的対応、授業・カリキュラムアンケートの継続的実施等を通じて教育の質の保証・向上のためのさまざまな努力が重ねられていることを評価。 ・留学生受け入れ数及び学生海外派遣数の低迷に象徴されているように大学、特に教育面でのグローバル化への取組みがなお充分でないことは残念。抜本的取組みを強く期待。
			B	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画達成に向け、国際総合科学部でSWOT分析などにより学部の特徴を整理し、学生のコア能力等の要素を設定、各学系で内容の定義付けを実施したことを評価する。引き続き27年度以降、第3期中期計画に向けて次世代カリキュラムの検討が進むことを期待する。 ・医学部について「2023年問題」への対応として、臨床学習の期間拡大や能動的学習等のカリキュラム改善に取り組んだことを評価する。27年度以降、26年度は計画よりやや不十分だったTBL授業の拡大や、カリキュラム改善が授業内容の質的向上につながるよう、更なる取組を期待する。 ・新たな取組みとして県立高校2校・市立高校2校とSGH関連事業の連携を進めたことを評価する。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
			B	
			B	
I-1 教育に関する取組	10	B	B	
			B	
			B	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
B				

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	I-1-(1) 全学的な取組	10			<ul style="list-style-type: none"> ・国際総合科学部においてSWOT分析などの新しい手法を用い学部の特徴や教育内容の分析評価を進めていることを評価。第3期にむけてカリキュラム改革が進むことを期待。 ・学部入試における科学オリンピック入試の新設を評価。これらを含め特定分野における優れた才能を有する者に対する特別選抜の一層の充実を期待。大学院入試の説明会の充実に努め、入学定員充足率の上昇にも反映できたことを評価。 ・次期図書館システム更新計画を着実に進められたい。なお、急激な円安の進行によりコアジャーナルの維持が困難になっていることは遺憾。最低限の維持のために適切な財政措置を期待。 ・第5回を迎えたアカデミックコンソーシアム事業が計画通りヴェトナム国家大学等で開催される等事業全体の充実が着実に進められていること、またGCIの活動の活発化を通じてアジアのいくつかの都市課題解決への具体的な取り組みを進めていることを評価。 ・SGH関連事業を中心に県立高校との連携が充実しつつあることを評価。 ・COC事業の中核となるべき地域実践プログラムの履修認定を受けた者が34名に留まっている。対象となる授業科目数が比較的多く、かつ修了要件も比較的ゆるやかと思われるにもかかわらずこの結果に留まっていることは極めては残念。学生への履修指導の充実を含め、より多くの学生が地域課題への実践的取組を学ぶ機会を、キャリア形成支援科目等とも関連しつつ、積極的に拡充することを期待。 <p>・概ね計画に沿った取り組みが実施されているが、3ポリシーに沿った教育の実施は急を要す。入試改革・入試相談会の工夫など入試に戦略的取り組みが行われているが、より一層志願者数増強と質の良い学生の確保に務めて欲しい。学生の国際経験の機会が拡大したこと、PE受講者にTOEFLに特化したeラーニングを導入したこと等、国際化が前進したように見受けられる</p> <p>・中期計画達成に向け、国際総合科学部でSWOT分析などにより学部の特徴を整理し、学生のコア能力等の要素を設定、各学系で内容の定義付けを実施したことを評価する。引き続き27年度以降、第3期中期計画に向けて次世代カリキュラムの検討が進むことを期待する。</p> <p>・医学部について「2023年問題」への対応として、臨床学習の期間拡大や能動的学習等のカリキュラム改善に取り組んだことを評価する。27年度以降、26年度は計画よりやや不十分だったTBL授業の拡大や、カリキュラム改善が授業内容の質的向上につながるよう、更なる取組を期待する。</p> <p>・新たな取組みとして県立高校2校・市立高校2校とSGH関連事業の連携を進めたことを評価する。</p> <p>・アドミッションポリシーなど全学部に横串的な理念を共有することは重要であり、今後に発展するための基礎と考える。</p> <p>・「2023年問題」へのスピード感ある取組を具体化し、平成27年度からスタートさせている。今後の成果を期待したい。</p>

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	I-1-(2) 学部教育に関する取組	23			<p>・PEセンターを中心に全学的な英語教育の充実を進め、26年度末の国際総合学部1年生のPE単位取得率が60%を越えたこと等着実に進んでいることを評価。</p> <p>・中期計画に掲げる通り、専門教養科目における国際的視野に立つ教育内容の充実に向け、英語による授業の実施、海外大学等の遠隔講義、学事暦の大幅な弾力化等、国際的な視野で学ぶことができる環境の整備への強力な取り組みを期待。</p> <p>・ベネチア大学及びタマサート大学との交換留学協定の締結、国際化のための教員活動支援プログラムの立ち上げ、医学部のリサーチクラークシップによる学生の海外派遣等市大生の派遣及び留学生の受け入れの充実に努力していることは評価するが、結果的に海外派遣プログラムや海外フィールドワーク支援プログラム参加学生数が全体としてやや伸び悩んでいることは残念。さまざまな形態での学生の海外経験機会の一層の充実への努力を期待。</p> <p>・海外からの留学生受け入れ数が依然低迷していることは大変残念。留学生によって選ばれる真に魅力ある大学づくりに向けて教育方法改革、生活支援充実への抜本的取組を期待。</p> <p>・医学部における2023年問題対応への積極的取組（臨床実習期間やTBL形式の授業の拡大等）を評価。</p> <p>・今後の社会的ニーズを踏まえつつ総合診療医学教室やリハビリテーション科学教室の立ち上げを進めていることを評価。また看護師の市域・県域医療機関への高い就職率を確保していることを評価。</p> <p>・国際総合科学部が収容定員2,600人に対し在籍者総数が3,186人と定員超過率が1.2倍を超えていることは、良好な教育環境維持の観点からやや疑念を持たざるを得ない。適正な学生数の維持に十分配慮されたい。</p> <p>・国際総合科学部：SWOT分析を踏まえて教育のあり方および次世代カリキュラムの検討が行われ、教育体制については教員間で情報共有を図る等、学部教育の内容および学生指導の改善に向けての努力が見られる。国際化の一環としてのフィールドワークは、質の向上および危機管理対策が図られ、軌道に乗ってきたこと、留学プログラムも次第に充実してきたが、質の良い留学生の確保が難しい。これは横浜市大だけでなく、日本の大学の国際化にとって大きな問題である。医学部：超高齢社会における地域医療の課題に対応した体制の強化を図った。リサーチクラークシップが発展し、国内外の外部研究機関にも学生派遣を行った。</p> <p>・英語教育の充実について、国際総合科学部1年次のPE単位取得率が初めて60%を超え、看護学科においてもTOFUL-ITP500点相当の単位取得者が30名を超えるなど、PEの授業改善取組効果が出てきている。</p> <p>・医学科における「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」で、初めて海外研究機関に2名の学生を派遣し、27年度以降も海外派遣拡充の方向であることを評価する。</p> <p>・24年度から減少を続けていた本学への留学生数が27年度に増加に転じた。志願者増に向けて更なる検討と取組を期待する。</p> <p>・総合診療医学教室の立ち上げ、国際認証基準を満たす教育課程の改変等、院内外における時代の流れに対応していることを評価することができる。</p> <p>・「PE」についての具体的取組成果が現れてきており、医学部においても、現実に講義に取り入れるなど、重要性が共有化され着実に改善している点は評価できる。</p>

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	I-1-(3) 大学院教育に関する取組	36			<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の適正な学生定員の確保に向けての積極的な取り組みを評価。特に生命医科学研究科の定員確保にさらに努力されたい。 ・生命ナノシステム科学研究科を中心に早期履修制度への取り組みが進められているが、早期履修1期生31名全員が1年修了にならなかったことは残念。その原因を分析し制度運用の改善を図るべき。 ・医学研究科における医経連携への具体的取組の早期実現を期待。 ・地域医療貢献に向けた高度看護師養成のための博士課程の早期開設を期待。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学院の定員割れは、就職問題および国立大学の定員増加と連動していて、苦戦している大学が多い。 <ul style="list-style-type: none"> ・生命ナノシステム科学研究科の物質システム科学専攻及び生命医科学研究科については、入学者増に向けていろいろ取組はなされているが、相変わらず定員割れが続いている。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学専攻の充実は今後の地域医療に大いに重要であり、医学研究科と協力して斯界に寄与しようとしている。今後の継続と発展が望まれる。
	I-1-(4) 学生支援に関する取組	43			<ul style="list-style-type: none"> ・授業料減免制度の積極的運用に努めていることを評価。今後とも所要財源の確保を期待。同時に、経済的支援充実のためにはJASSOの貸与制奨学金のみに頼ることなく、市大として独自の給費性奨学金制度の創設を期待。 ・市教委との調整のもとに留学生宿舍の確保に努めていることは評価するが、留学生を対象とする授業料減免制度を定着させるとともにその一層の充実を進めるべき。 ・COC事業とも連携し共通教養等でのインターンシップ等の実践的授業の充実を早急に進めることを期待。 ・ボランティア支援室を開設し、ボランティアニーズ受付・情報収集及び安全性・有用性の確認等の一元化を進めていることを高く評価。 <ul style="list-style-type: none"> ・現在メンタルの問題を抱えている学生が多いなか、カウンセリングセンターはあるのか。奨学金制度が充実している様子が見られない。キャリア教育体制の充実は他大学ではかなり前から進んでいるので、一刻でも早める必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業料減免制度について、広報活動の強化により適格者が増加したことだけでなく、アンケートにより制度の有用性を調査し、また予算超過時の対応策を策定したことを評価する。 ・受入交換留学生用居室の安定確保ができたこと、及び留学生のキャリア支援に関するアンケートを行うなど留学生支援ネットワークの構築への取組がなされている。留学生増に向けて更なる取組を期待する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対するメンタルヘルス面など多岐にわたる心身のケア実践を更に充実されたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア支援センター」を立ち上げる等、現実的な支援項目を進めている点は評価できるが、このテーマは一度やれば、常に大丈夫というものではないので、むしろ学生側の満足度が把握できること、要望の反映がどこまで出来るかということ、出来る出来ないの双方の納得感がより重要であるため、その仕組みづくり（PDCA）と、透明性向上を今後高めていただきたい。

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
I-2	研究の推進に関する取組	51	B	B	
				B	
				B	
				B	・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
				B	
I-2-(1)	研究水準及び研究の 成果等に関する取組	51			<ul style="list-style-type: none"> ・奨学寄附金、科研費等の教育研究に関わる外部資金獲得額に引き続き努めていることは評価するが、受入れ件数及び金額とも前年をやや下回ったことは残念。 ・教員地域貢献支援事業を大幅に充実させたこと、ボランティア活動の一層の充実を進める拠点としてボランティア支援室を開設したことを高く評価。 ・エクステンション講座を新規に保土ヶ谷区及び栄区で開催したことを評価。
					・外部研究費受入れ件数・額は21年度の14%増となり、教員の努力を評価する。
					・機関リポジトリの仕組みが円滑に開始され、またCOC事業に果敢に取り組んでいることが理解される。エクステンション講座についても大いに評価したい。

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	I-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する取組	56			<ul style="list-style-type: none"> ・先端医科学研究センターが新たに厚労省の網羅的遺伝子解析研究の研究拠点に採択されたことを高く評価。また初の専任教員3名を配置したこと、研究棟の整備を着実に進めていることを高く評価。 ・産学官連携の一層の推進のため、27年度から学長を室長とするUR A推進室を立ち上げ2名の専任教員の配置を決定したことを高く評価。
					<ul style="list-style-type: none"> ・先端医科学研究センターにおける共同研究拠点の増加に伴い、研究棟の増築、専任教員の着任など、伸展が見られる。
					<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省イノベーションシステム整備事業の中間評価でA評価という高い評価を受けるとともに、厚生労働省の難治性疾患実用化研究事業「遺伝性難治性疾患の網羅的遺伝子解析拠点研究」にも新たに採択されたことを高く評価する。 ・先端医科学研究センターの共同研究拠点の更なる機能強化に向けて先端医科学研究棟の増築に着手し、またセンターに初の専任准教授が3名着任するなど、体制整備充実への取組が進められている。 ・外部研究費獲得額及び件数について、過去最高となった25年度を下回るものの、到達目標を上回っていることを評価する。
					<ul style="list-style-type: none"> ・貴学と地域経済界との産学連携活動や、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区における活動など、地域の利を活かした取り組みを今後も大いに進められたい。
					<ul style="list-style-type: none"> ・外部との連携、具体的なセミナーの開催と参加者の増加、また、専任教授の配置など目に見える進捗が出てきている点は評価できる。
	I-3 教育研究の実施体制に関する取組	59		B	<ul style="list-style-type: none"> ・学術院において教育の質的改善のためのさまざまな具体的な取り組みを進めている。
				B	
				B	
				B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも学長の強いリーダーシップによって教育研究の充実を期待する。
				B	

年度計画（項目）	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
II 附属2病院（附属病院及び附属市民総合医療センター）に関する目標を達成するための取組	58	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・センター病院における横浜市重症外傷センターの設置等、引き続き政策的医療への積極的取組を進めるとともに、附属病院での手術支援ロボットの導入、センター病院でのハイブリット手術室の整備等、医療機能の高度化を進めていることを評価。 ・臨床研究・治験への取り組みを強化するため「横浜臨床研究ネットワーク」を立ち上げ計15病院の連携協力体制を整備したことを評価。
			B	
			B	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
			B	
II-1 医療分野・医療提供等に関する取組	60	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・政策的医療の取り組みを着実に進め、特にセンター病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されるとともに救急搬送体制と連携した重症外傷センターを新設し、救急医療の中心的病院としての機能強化を進めていることを高く評価。 ・引き続き先進医療の積極的推進に努め、センター病院で新たに3件の先進医療の承認を受けたことを評価。 ・地域医療連携機能の充実に向けて、附属病院における入院支援コーナー設置の決定、センター病院における地域医療機関等を対象とする広報誌の創刊等の取り組みを評価。 ・臨床研究の推進のため地域医療機関と連携しつつ新たに「横浜臨床研究ネットワーク」を発足させるとともに各種の専門家が参加する次世代臨床研究センターの設置を決定したことを高く評価。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・特にセンター病院は国の指定を受けた地域がん診療連携拠点病院に認定されたり、全国初の「横浜市重症外傷センター」を設置した。その他難しい分娩を多く受け入れたり、先進医療について新たに3件承認され、中期計画目標を達成した。附属2病院は市大が中心となり、「横浜市臨床研究ネットワーク」が発足したなど、特にセンター病院の業績が評価されるが、2病院とも先進医療及び地域貢献に力を注いでいる。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・センター病院も附属病院同様地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、また救急搬送体制と連携した全国初の「横浜市重症外傷センター」を設置したことを評価する。 ・先進医療申請・承認について26年度も新たな承認があり、センター病院においては中期計画目標を達成したことを評価する。 ・25年度に続き高い紹介率・逆紹介率を保ち中期計画目標値を超えていることを評価する。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷センターの設置と本格稼働、その他高度先進機器の導入などを含めて、地域において貴学附属病院(2病院)が期待される役割に相応する十分な活動を行っている。逆紹介率の推移も評価できる。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体と連携しての災害時医療体制の充実が図られた点、また、先進的高度医療技術の提供強化が進んだ点も評価できる。

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
II-2 医療人材の育成等に関する取組	68	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の育成から生涯学習までの幅広いキャリア開発推進の中心組織として看護キャリア開発支援センターの27年度からの設置を決定したことを評価。優れた看護師の育成支援に資することを期待。 ・臨床研修医育成のための努力を重ねていることは理解できるが、特に附属病院で初期研修医のマッチ率が前年を大幅に下回ったことは残念。次年度以降の努力を期待。 ・引き続き、附属病院の院内保育所の保育対象の拡大等女性医療スタッフの働きやすい環境整備に努めている。 	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・センター病院では研修プログラム定員のフルマッチを達成し、学生は国家試験に全員合格した。2病院看護部と看護学科における連携協力の充実・深化について検討を進め、27年度より「看護キャリア開発支援センター」を開設することが決定した。附属病院では病児・病後児保育室の開設、センター病院ではクラス別保育の実施など、女性医療スタッフの職場環境づくりの充実が図られた。このような状況から、人材育成が粛々と進んでいる様子が評価される。 	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院における「入院支援コーナー(仮称)」設置やセンター病院における「統合患者サポートセンター」の運営は、医師等の負担を軽くするとともに患者の利便性を高めるものであり、評価する。 ・女性医療者支援委員会を立ち上げるなど女性医療スタッフの労働環境改善への取組を評価する。 	
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に年度計画に沿って十分な結果が得られていることを確認できたので、平成26年度評価は宜しいと判断できる。ただし、医療人材の育成については、例えば、病院に働く全ての職種が協働して、若い医師や看護師、その他の職種(薬剤部門など、貴学が輩出していない職種も採用するので)に属する医療人材を教育することがポイントである(卒後臨床研修評価機構など参照)。そのような観点での人材育成に向けた計画を構築することも望まれる。 	
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラムの充実、セミナーの開催等を通して育成を継続し、資格取得も大幅に増加している点は評価できる。 	

年度計画（項目）	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
Ⅱ-3 医療安全管理体制・病院 運営等に関する取組	76	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい勤務環境にもかかわらず医師の超過勤務時間の縮減に努めていることを評価。 ・ 効率的な病床運用に努力し、病床利用率の向上、平均在院日数の減、手術件数の増加等が進められているが、両病院とも医薬材料費比率の改善が進んでいないことは残念。一層の努力を期待。 ・ また、こうした努力にもかかわらずセンター病院の経常利益において317百万円の赤字を計上したことは遺憾。適正な収支バランス確保のため病院としての役割の再点検を含め抜本的な対策を期待。 ・ 附属病院の医療情報システムの更新を計画通り着実に進められたい。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2病院とも病床利用率・平均在院日数は前年度より改善され、引き続き中期計画目標値を達成した。新入院患者数も、前年度を上回った。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両病院とも病床等の効率的運用に努め、病床利用率、平均在院日数、新入院患者数のいずれも25年度より改善され、25年度に引き続き中期計画目標値を達成したことは評価できる。また、超過勤務の縮減の取組により人件費比率も25年度に引き続き中期計画目標値を達成している。 ・ ただし、このように中期計画目標を満たしていても26年度はセンター病院が赤字となっているため、第3期中期計画においては指標の選び方及び目標値の再検討が必要かと思われる。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に年度計画に沿って十分な結果が得られていることを確認できたので、平成26年度評価は宜しいと判断できる。ただし、医療安全について従来からの堅実な手法を踏襲しつつも、例えば、レジリエンスエンジニアリングなどの医療安全に関する新機軸も知られているので、これらの視点を容れた病院の運営・管理全般の”進化”も期待したい。また「情報は洩れるもの」（あたかも「人はだれの間違える」と同様に）という観点での医療情報システムの構築もいかがであろうか。これらは貴学の歴史的な事情も勘案すれば、きっと到達されたいテーマであろうといっても過言ではなからう。
			B	

年度計画（項目）	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
III 法人の経営に関する目標を達成するための取組	85	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 消費増税をはじめ職員給与減額措置の終了、診療報酬改定等の厳しい社会的環境の中にあつて各種外部資金の獲得等の経営努力を重ね、法人全体として黒字決算を達成したことは評価するが、センター病院においては多額の赤字決算となったことは遺憾。その原因を確実に分析し、改善への強力な取り組みを進めるべき。 度重なる個人情報漏えいの発生は極めて遺憾。これまでの事例の反省を踏まえつつ、個人情報保護システムの構造的改革への抜本的取組を強く期待。
			B	
			B	
			B	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画に従って概ね良好に実践されている。
			B	
III-1 業務運営の改善に関する取組	85	B	B	
			B	
			B	
			B	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画に従って概ね良好に実践されている。
			B	

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	Ⅲ-1-(1) ガバナンス及びコンプライアンスの強化など運営の改善に関する取組	85			<ul style="list-style-type: none"> ・学内でのハラスメント防止のため各拠点ごとに防止責任者を設けるとともに、eラーニングを活用した研修を全教職員対象に実施していることを評価。 ・学校教育法等の改正（平成26年法律第88号）に定める改正の趣旨は本学の学内関係規定において既に適正に定められている。 ・コンプライアンス研修を実践的に進めたり、ハラスメント対策としてeラーニング研修の拡充および体制強化に努めた。 ・経営方針会議や経営審議会等で第3期中期計画に向けての課題が取り上げられている。また、本学の課題と方向性や基本方針について、YCU法人Newsやリーフレットを利用して、教職員への周知を図る取り組みを評価する。計画達成には、情報の共有と理解が重要であると考える。 ・コンプライアンス研修で事例演習を行ったり、ハラスメント研修の対象を全教職員に広げるなど、より研修の効果を上げる取り組みが行われている。 ・年度計画に従って概ね良好に実践されている。 ・コンプライアンス、ワークライフバランスへの取組等、前向きに着実に実施できている。人事運用、人事制度の周知とその理解も図られている。
	Ⅲ-1-(2) 人材育成・人事制度に関する取組	87			<ul style="list-style-type: none"> ・労働契約特例法の制定に伴う教員任期制の運用方法の早期再検討を期待。 ・教員のサバティカル制度が本格実施されたことを評価するが、対象人数の増加を期待。 ・YCU職員育成プロジェクトを立ち上げ現場職員の見線からの人事制度の改善提案を取りまとめ、その一部が制度改善につながったことを高く評価。 ・職員の固有化率の引き上げに、引き続き努力している。 ・サバティカルを取得する教員が意外に少ないのは、制度にまだ無理があるのではないかと懸念される。職員の固有化率が66.4%に引き上げられ、職員の育成・管理職への登用が徐々に実現する兆しが見受けられる。 ・サバティカル制度の見直しにより、申請者が倍増したことを評価する。 ・子育て支援、外国籍教員支援については前期と同様に情報提供等を行っているが、アンケートや聞き取り調査等によって根本的ニーズを把握し、それへの対応を検討する取組を進めてほしい。子育て支援は社会を挙げて取り組むべき課題である。 ・各所属代表職員による「YCU職員育成プロジェクト」を設置、その検討結果が人事制度の見直し等につながり、さらに「課長育成プロジェクト」にもつながっていくことになったことを評価する。 ・教職員の士気も高いものがあると思われる。年度計画に従って概ね良好に実践されている。 ・コンプライアンス、ワークライフバランスへの取組等、前向きに着実に実施できている。人事運用、人事制度の周知とその理解も図られている。（再掲）

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	Ⅲ-1-(3) 大学の発展に向けた整備等に関する取組	91			<ul style="list-style-type: none"> ・市との緊密な連携のもと文科系研究棟の耐震補強工事、学生交流センターの新営着手、IT環境の整備等八景キャンパスの整備が着実に進められている。 ・メールシステムのクラウド化によりシステムの効率化を進め、経費削減を進めたことを評価。 ・大規模災害発生時の初動対応行動マニュアルを新たに作成し、初動対応訓練を実施したことを評価。 ・危機管理体制については各種訓練を実施した。学生の危機管理に対しては、海外での事故を想定した危機管理シミュレーションの訓練や海外派遣プログラムに対応した緊急時のマニュアルの検証・更新を計画通り行った。 ・前年度から進めてきた基幹ネットワークシステムの更新が、具体的な教育研究環境の向上や費用の削減につながったことを評価する。 ・省エネルギー環境管理研修の受講対象者を全職員に広げたり、また教職員や学生から省エネ取組を募集するなどの意識啓発への取組を評価する。 ・貴学の発展が、横浜市の防災計画などといった地元行政との連携とに大いに関係する（というか、多くの都市にとっての模範を示す水準に達する）ことが期待される。
	Ⅲ-1-(4) 情報の管理・発信に関する取組	95			<ul style="list-style-type: none"> ・大学ポータルサイトに計画通り参加したことは評価できるが、公開すべき情報項目の検討をさらに進め、社会が真に求める情報の公開にさらに積極的に取り組むことを期待。 ・情報発信の強化のためツイッターやフェイスブックによる発信を開始したことを評価。 ・たび重なる個人情報漏えいの発生は極めて遺憾。事例の反省を踏まえつつ、個人情報保護について、全職員の意識改革はもとより保護システムの構造的な改革への取り組みを強く期待。 ・ベトナム語等中国・韓国語以外のアジア系言語によるHP作成を期待。 ・27年4月に附属病院で個人情報漏洩事故が発生したことは遺憾である。個人情報保護の管理体制については、教職員の意識改革に重点を置いて取組が進められているが、それとともに構造的に個人情報を保護する内部統制システムをより強固にしていくことにも力を入れていただきたい。 ・卒業生向けの情報提供についての種々の取組が進められ、またホームカミングデーの卒業生参加者数が過去最高となるなど卒業生対策が進められていることを評価する。これが寄附金収入増加等大学運営に実質的に資することにつながるよう、更なる努力を期待する。 ・26年度における「職場点検、研修、地道な啓発」という計画に則った実績は、その意味でB評価である。また、漏えいがあった事実から自己評価をCとしたことも理解できる。しかし、貴学の学長以下、全体としての組織的な対応としては、上記Ⅱ3のコメントにも記載したように、教職員への精神論的な要求水準を超えた「システム」としての取り組みを望みたい。つまり、情報漏えいについて、貴学におけるシステムの不全(System failure)としての観点からも考察する必要があると考える ・重要性が充分理解され、一所懸命取り組んではいるが、残念ながら、まだ事故発生する等道半ば。このテーマは学校・教育界では特に風土改革の覚悟が必要。 ・意識付けと徹底だけではなかなか変わらない。風土を変える具体的手法、経営側の覚悟が共有され、施策と連動していく仕組みとその運用、トラブル事故発生時の責任のあり方、対処、予防等、より具体化した対策とその運用が必要と考える。

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
III-2 財務内容の改善に関する 取組		100	B	B	
				B	・在学中に使用していたメールアドレスを卒業後も使用できるようにし、大学からの情報を発信しやすい環境を整備したことは評価できる。このネットワークを大学支援や学生活動支援に有効に役立てることを期待する。
				B	・財務内容の改善に関する取組は計画に従って行われているが、26年度決算はセンター病院が赤字となり、法人全体の黒字幅も経常利益ベースで25年度6.9億円に対して26年度3.2億円と半減した。大学部門は消費税増税の影響を受けないが、両病院については今後更なる消費税増税や診療機器の購入が負担となるため、一層の努力を期待したい。
				B	・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
				B	
III-2-(1) 運営交付金に関する 取組		100			
					・年度計画に従って概ね良好に実践されている。

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	III-2-(2) 自己収入の拡充に関する取組	101			<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生向けの情報提供の改善等、寄付金増のための種々の取組によって寄附件数は増加したが金額は25年度より減少した。広く浅く寄附を募る方策以外に、特定の目的のためにある程度まとまった寄付を募る方策など、更なる工夫を期待したい。 ・ 年度計画に従って概ね良好に実践されている。
	III-2-(3) 経営の効率化に関する取組	104			<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人業務全体の増加傾向の中で平均超過勤務時間数の減少を進めていることを評価。 ・ 両病院において超過勤務の縮減の取組により人件費比率を抑え、25年度に引き続き中期計画目標値を達成している。また事務部門においても超過勤務削減の取組の結果、総超過勤務時間の前年比2%減を達成し、大学部門全体の人件費比率も中期計画目標値を達成したことを評価する。 ・ 上記Ⅱ3でも述べたが、両病院とも同様に経営指標目標を達成してもセンター病院の方が利益幅が小さい(あるいは赤字が出やすい) のが収入に対する運営交付金の占める割合の違いによっており、それがセンター病院の性格付けが当初と変わってきたことに起因するのであれば、それを見直すことが必要かと思う。センター病院の教職員の士気に関わることであると考える。 ・ 年度計画に従って概ね良好に実践されている。

年度計画（項目）	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
IV 自己点検及び評価に関する目標 を達成するための取組	106	B	B	
			B	
			B	
			B	・年度計画に従って概ね良好に実践されている。
			B	・評価委員会が会社法でいう外部監査的であり、各部が自己評価した内容を法人内で経営陣からも、職員サイドからも真に独立した内部監査的部署がその自己評価を現実的、中立的に中間評価する仕組みが必要と考える。